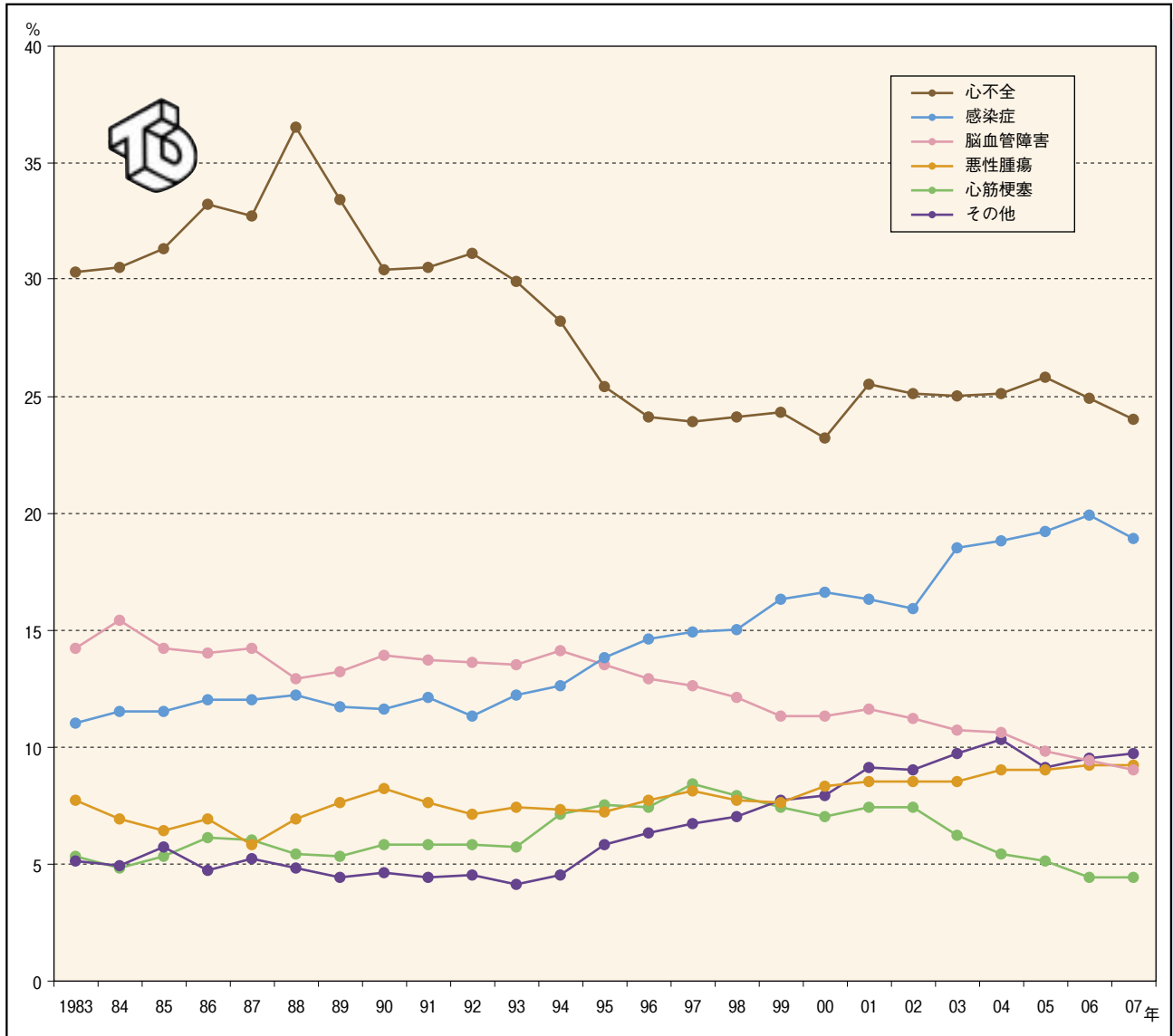


5) 死亡原因

(4) 年別死亡原因の推移 (図表19)



患者調査による集計

解説

年別死亡原因の推移

死亡原因の第一位はあいかわらず心不全であるが、2007年の頻度は24.0%で前年と比較して0.9%減少した。しかし、1996年以降は24～25%程度で推移し、横ばいの傾向である。一方、感染症は2007年では18.9%と前年より1.0%減少したが、漸増傾向は明らかである。感染に対する抵抗力の低い糖尿病性腎症患者や高齢者の増加、下肢切断を必要とする患者などの増加を反映したものと推測される。脳血管障害は1994年以降着実に減少し、2007年では9.0%であった。心筋梗塞も1997年の8.4%をピークとして漸減し、2007年には4.4%となった。カテーテルインターベンションなどの治療が普及したことを反映した結果と推測される。悪性腫瘍は9.2%で前年と同様であるが漸増傾向が観察される。